

Problem Solving

# Case 1



おなかも心も満たす居場所

金沢子ども食堂  
ホットサロン **すくすく**

金沢区

課題1 | 広報周知

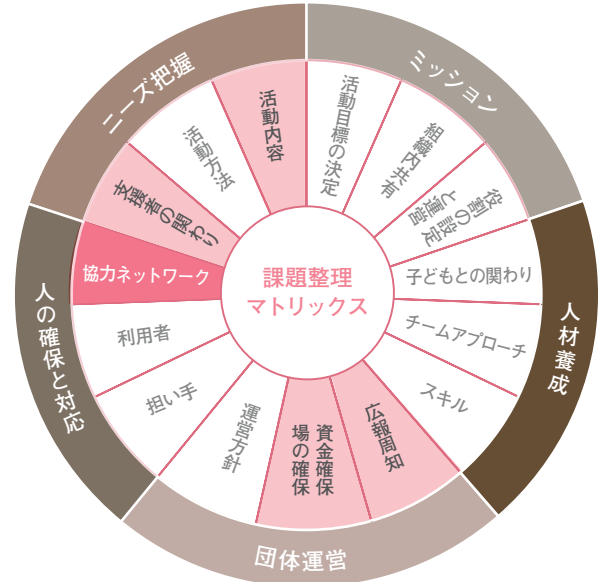
課題2 | 支援者の関わり

課題3 | 協力ネットワーク

# 金沢子ども食堂 すくすく おなかも心も満たす居場所 ホットサロン



「すくすく」は子ども食堂を毎月1回開催するとともに、ひとり親家族への食料支援として、「ホットサロンすくすく」も毎月1回開催しています。区内の多くの商店や企業からの応援を受け、また大勢のボランティアが参加して、毎回50人の親子が集い、おいしいごはんと共に楽しい時間を過ごしています。



## 活動のきっかけ

### 家族を救ってくれたフリースペースとの出会い

長男が中学校1年生の時、学校でいじめにあい、それがきっかけで不登校となり、更にそのストレスを親や、弟、妹にぶつけるようになりました。もともと、友達と遊ぶことも好きだった長男にとって、学校に行けないことは苦痛だったと思いますが、家族もまた、長男が激高することに脅えて生活していました。そのような暮らしの中で、フリースペース「金沢虹の会」を知りました。

長男のために訪れた場所でしたが、長男は行こうという気持ちはなくなってくれませんでした。でも、殺伐としていた家での暮らしが辛かった弟妹をつれて通いました。みんなで作ったご飯を食べ、遊ぶことで、いつの間にか私も弟妹も笑顔を取り戻すことができました。また、「金沢虹の会」には親の会もあり自分自身の思いをさらけ出し、支援者や同じ境遇の方に受け止めてもらうことができ、励まされ、不安感が和らぎ、心のよりどころとなっていきました。

### ひとり親家庭のきびしい現実

福祉施設での勤務経験から、ひとり親家庭が様々な課題を抱え生活している状況を知りました。経済的に困窮していて親子とも健康的な生活が送れない、地域で孤立していて友人も少なく、困った時の相談相手がいない、子どもが問題行動を起こしても適切な対応ができないなど課題は多様であり時には複合的です。

## この方にお聞きました

### PROFILE

加々美 マリ子さん (62歳)



川崎市生まれ。結婚と同時に金沢区へ転居。3児の母（現在長男34歳、次男32歳、長女30歳）2004年より市内福祉施設に非常勤として勤務。

父がボーイスカウトや青少年に関わる仕事に従事していたため、いつも子どもや大人が入り出するにぎやかな家庭で、地域に尽くすことが当たり前、近隣と助け合うのが日常という環境で育つ。結婚と同時に金沢区に在住。慣れない土地での育児から、子育てサークルを立ち上げ、また、はまっ子のスタッフを勤めるなどしていた。

長男（現在34才）が中1の時、いじめをきっかけに不登校となり悩んでいた時、参加したフリースペースに親子とも救われた。これらの経験により2017年、子どもにとって地域に安心できる居場所が必要と、「金沢子ども食堂すくすく」、ひとり親への食料支援と居場所として「ホットサロンすくすく」を開設。

金沢子ども食堂すくすく

所在地	いきいきセンター金沢（金沢区社会福祉協議会）
URL	https://sukusuku.amebaowmd.com
開設年月日	2017年3月
対象	子ども・親子
開催日時	毎月第1日曜日 12:00～15:00
参加費	子ども無料・おとな300円
参加人数	50人（事前申し込み制）

ホットサロンすくすく（ひとり親限定の食堂・食料支援）

所在地	いきいきセンター金沢（金沢区社会福祉協議会）
開設年月日	2018年6月
対象	ひとり親家族
開催日時	毎月第3日曜日 11:00～15:30
参加費	無料
参加人数	20家族前後（事前申し込み制）

地域でこうした親子を孤立させないために、困ったことがあれば「助けて」と言える誰かが、それに手を差し伸べてくれる誰かが必要だと思っていました。

子どもたちがより良く育つために必要な経験と仲間

地元の小学校で「わんぱく土曜塾」という体験教室が行われていて、そのお手伝いもしています。現代の子どもたちは、生活の中で、自ら考え、行動する経験がとても少なくなっていると思います。経験の少なさは、考えるチカラ、人とつながるチカラ、コミュニケーションのチカラといった「生きるチカラ」が育ちません。こんなこともやってみようという新しい取り組みへのチャレンジ精神を持つことができないし、仲間と一緒に行動する楽しさも知ることができません。

「わんぱく土曜塾」は、そんな今時の子どもの経験の少なさを補おうと創られた活動です。学校の授業では体験できない、木工、アウトドア、工作、調理、そば打ち等、いろいろなプログラムを実施しています。子どもたちは、いろいろな活動に参加します。

参加する中で、子ども自身が「この活動好きだな」という自分を発見したり、「もっとこんなこともしてみたいな」という想いが生まれて挑戦をするようになります。そんな時、子どもが育っているなど実感します。もちろん、一人で子どもが育っているのではありません。仲間がいるから一緒に育っているし、大人の緩やかな見守りがあるから活動をもっと広げることができ、「すごいね」「頑張ったね」「面白いね」といった声掛けによって、子どもたちは、承認され、達成感を感じながら活動ができていると思います。

【子ども食堂すくすく誕生】 2017年3月

食を通してお腹も心も満たす場所を作りたい！

2016年「子ども食堂」の存在を知り、「食を通してお腹も心も満たす居場所を作りたい」と思うようになりました。地域活動の立ち上げ経験も専門的な知識もないゼロからの出発です。

まず、友人、知人に呼びかけ、ボランティア人材を集めました。

地域の商店を一軒一軒回り、食材の提供をお願いしました。嬉しいことに、少しずつ協力してくれる方や商店が現れるようになりました。場所は、金沢文庫駅近くのデイサービスセンター。施設側の厚意でデイサービス終了後のキッチンとダイルームを使わせていただけることになりました。体制も何とか整い、2017年3月「金沢子ども食堂すくすく」がスタートしました。

【ホットサロンすくすく誕生】 2018年6月

ひとり親家庭の孤立を防ぎ笑顔でいられる場を創ろう！

ひとり親家庭の暮らしの厳しさが社会の中で顕在化してきたこともあり、子ども食堂とは別に、NPO法人フードバンク横浜の力をお借りして、ひとり親家族に限定した「ホットサロンすくすく」を月1回開催することになりました。ボランティアと参加者が一緒に昼食を作り、プレイスペースでは地域のボランティアと一緒に子どもたちが遊び、お母さんは、ネイルやハンドマッサージ、ヘッドマッサージでホットできる、そんな時間を過ごしてもらっています。

フードバンクや協力してくれる企業、商店からの寄付された、お米、調味料、缶詰、レトルト食品、野菜、おかし、生活用品などたくさんの食材が並び、自由に持ち帰ることができるようにしています。また、子ども服のリサイクルも行っています。

不安な生活を支えることができるよう、子育て相談、悩み相談、時には弁護士の協力で法律相談、無料の歯科検診も開催しています。活動は口コミやSNSで広がり、今では戸塚区や旭区など遠くからも参加しています。

課題1

広報周知

資金・場所の確保

I 活動周知



【利用する人(家族)】【一緒に活動してくれる人】  
【活動を応援してくれる人や団体】に周知

想いを持って始めた取り組みですが、実際に活動していくためには、周知も協力を仰ぐことも必要です。周知は、1) 利用する人(地域の親子) 2) 一緒に活動してくれる人 3) 後方的に活動を応援してくれる人(団体) だと思っています。





## 具 体 策

### 広げる・広がる活動の輪

自分たちでの SNS での発信や地域情報誌タウンニュースへの「子ども食堂すくすく」の掲載依頼などが実現し、私、個人からの声掛け以外にも、ボランティアとして協力したい方、食材を提供したいと申し出てくれるお店や企業の方があられました。こうした方々の協力によって、「子ども食堂すくすく」は、月1度、毎月開催。訪れる人たちも、赤ちゃんからお年寄りまで、毎回、50名以上の参加を得ることができています。

現在は、広報紙「すくすく通信」を定期的に発行し、支援してくださっている団体、お店、個人名も掲載して、感謝を伝えるとともに、協力、寄付の呼びかけを続けています。

また、毎回、「すくすく」の会場にも食材などの寄付をして下さったお店、企業の名前を張り出し、参加者にも周知しています。

食事の支援だけでなく、地域とのつながりや、友達づくりのきっかけになればと、ひとり親家庭にも参加を呼びかけました。こうした親子の参加を得て、食の提供だけでなく、子ども達も親同士も交流できるよう、ワークショップやちょっとしたイベントをするなどプログラムも工夫につながっています。

## II 目的を実現するための場所の確保



解決へのアプローチ  
how to approach

### お腹も心も満たす居場所の確保

子ども食堂を行うときに、どこで行うかということは、とても重要です。身近な場所で、安心して居られる場所であると同時に、調理室が整備されていることや、食事をする以外のプログラムを行うスペースなど、さまざまな要素があると思います。

他にも、ボランティアが食材や機材を運搬する必要があり、駐車場が確保できるか、また、利用者にとって最も支えとなる曜日や時間はいつなのか等、要望としては様々ですが、地域の中に、すべて叶えられる場所を借りることは非常に難しいことだと痛感しています。お金のかかる場であれば、叶うかもしれませんが、それに使える資金もありません。

## 具 体 策

### ①協力団体との調整による場の貸与

ボランティアや協力機関も増え、沢山の利用者も得ることができましたが、課題も生まれました。

「子ども食堂すくすく」は、18時オープンとしていましたが、デイサービスセンターをお借りしているため、お年寄りが帰ってからの16時半からでは、どうしても50名分の食事の準備は間に合いませんでした。そこで、金沢区福祉活動拠点「いきいきセンター金沢」に会場を変更することになりました。私たちとしては、お母さんたちが夕食を作る心配をせず、子どもと、そこに訪れる他の親子やボランティア達と、ゆっくり過ごしてもらいたい、それを実現するためには、土曜日の夕食を提供する子ども食堂が良いと考えていました。でも、毎月、土曜日の夕方というのは他の拠点利用団体との調整が必要で、それはかないませんでした。実際は、社会福祉協議会と相談の結果、日曜日の昼食提供ということになりました。

### ②食材や機材の搬入について

多くの食に関する市民活動の方々が悩んでいることではないでしょうか。子ども食堂を行うために、毎回の食材も50食分ある他、食器類や調味料等についても、常に持ち込みをする必要があります。また、食の提供以外のプログラムを行う場合は、その用具も持ち込みます。

こうした物を置いておけるスペース、また、搬入のための車の駐車場など、安定的に借りることができたなら、もう少し、ボランティアの負担も軽減できると思います。私たちには、解決しにくい課題の一つです。

## III 物資の提供



解決へのアプローチ  
how to approach

### 子ども食堂への地域の理解を広げること、 食材等物資の支援をお願いすること

利用者からの利用料や会費等を頂くことがしにくい活動です。ボランティアはすべて無償ボランティアですが、食を提供するに



も、食材が必要です。また、経済的に困窮している親子の場合は、子ども食堂での食の提供だけでは、支援の不足を実感することもしばしばあります。こういうことは、実際に、子ども食堂を行ってみて気づくことも多いのが現状です。

## 具 体 策

### ①地域の商店や企業を訪ねて、活動趣旨を説明して得る協力

立ち上げ期に、近隣の商店や企業を訪ね、活動趣旨に理解を頂き、協力をお願いしました。訪問したすべての機関から援助を受けられるわけではありませんが、知って頂くことの大切さ、何かの時に助け合える関係作りは大事だと思っています。

地元の農家さん、地域のスーパーマーケット、お寺さんからのお供え物の寄付など多様な人や団体に支えて頂いて本当に助かっています。チラシ、ホームページ等に協力して欲しい内容を具体的に示し、寄付の送り先を明記するなど、思い立った時に協力して頂きやすいようにしています。

### ②食支援団体の活用

「フードバンクかながわ」「食支援ネットかながわ」「神奈川フードバンク・プラス」に支援して頂いています。

ある日、既に子どもが二人いる生活困窮世帯で、妊娠中でもあるお母さんからのSOSの電話があり、一日1食しか、食事ができていない現状であることを聴き、「フードバンクかながわ」より、食材の提供をして頂いたことがあります。

食堂開始以来、南部市場の中の企業から、野菜を毎回頂いています。当初、頂ける野菜は、前日にならないとわからないので、メニューを予め決めるわけにはいかず、柔軟に対処しなければならなかったのですが、今ではメニューに合わせた野菜を揃えていただけるようになり、とても助かっています。

また、近隣の医療機関から寄付の希望を頂き、2年間、ふるさと納税を使って肉を提供して頂いています。こうした寄付は、一緒に活動するわけではないけれど、活動を気にかけて頂いている実感がありとても嬉しいです。

### ③他の子ども食堂との連携と情報交換

子ども食堂は、新しい取り組みであることが多く、私たちのように、活動してみて、新たに見えてくる課題も多いので

はないかと思います。そういう点では、同じ活動者同士の日常的な情報交換が役立ち、励まされることも多い状況です。

## 課題2

## 支援者の関わり

### 活動内容

### I 食の提供以外の子どもへの具体的な支援の必要性の模索と実践



#### 子どもたちにどんな支援が必要なのか？

## 具 体 策

### ①子どもの育ちや自立を支えようとする支援

子ども達は食事ができないことのみが課題なのではありません。親の生活状態、世帯の経済的困窮などは、孤立や生活経験の不足を生み、子ども達の育ちや自立に大きな影響を与えています。支援者は、まず、それを理解していることが大切だと思います。

### ②医療・教育支援の必要性

子ども食堂以外にも、最近は、学習支援活動も地域に増えていると聞きます。こうした支援活動もとても大切だと思います。子ども食堂と同様、学習だけを支援するのではなく、子どもの育ちを支える意識が必要だと思います。子ども食堂をおこなっていて、気づくのは、子どもの健康です。家庭では、規則正しい生活や、病気に罹らないよう予防したり、雇ってしまったら療養したり、本来、当たり前のことを学ぶ場でもあるのですが、それができていない場合があります。「子ども食堂すくすく」では、歯科検診を近隣の歯科医院に協力して頂き行っています。

### ③様々な人との関わりや経験

人との交流の少なさや生活経験の少なさは、子どもの生きるチカラを育むことを阻みます。だからこそ、子ども食堂で、



さまざまな人に出会い、経験することを大切にしています。

子ども食堂ですから、まずは、健康的で季節感のあるメニューを心がけていますし、食事以外のお楽しみ活動としては、ゲームや工作、豆まきやクリスマス会などの季節のイベントも行います。また、場を貸して下さっている福祉拠点への感謝を込めて、参加の子ども達も一緒に、お掃除をすることも大切な取り組みにしています。

### 親たちにどんな支援が必要なのか？

#### 具体策

##### ①ひとり親家庭の親と子ども達の生活力を高めるために

先に紹介した「ホットサロンすくすく」では、参加するお母さんの中からボランティアとして食事作りを担う方も出てきました。地域のボランティアさんと一緒に食事作りをすることで調理方法や栄養バランスを考えた献立など大切な生活力を身につける場ともなっているだけでなく、地域の方々との自然な交流が図れています。

##### ②日常生活に必要な食料や生活用品の支援

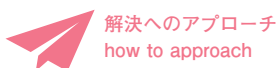
子ども食堂で食を提供するだけでなく、日常生活に必要な食料や生活用品の提供もできるよう心がけています。親が参加していない場合も、子どもの様子で気づけば、子どもに持って帰ってもらうこともあります。

##### ③生活に潤いや癒しを提供する支援

困難を抱えて生活する人たちは、気分転換をしたり、自分を癒すことが苦手な人が多いです。頑張ることだけでなく、そういう術を身に着けることで、自立した生活を続けることにもつながります。だから、子ども食堂のボランティアや協力機関は、調理を担当できる人ばかりではなく、さまざまな人や機関が必要です。美容室、ネイルサロン、カウンセリング団体などに協力をして頂き、プログラムを行っています。参加のお母さんたちにもホッとした笑顔が見られます。

## 課題3 協力ネットワーク

### I 子どもや家族を支えるネットワークを地域で育む必要性



#### 子どもや家族を支えるネットワークを！

利用者の中には、ひと月に1、2回の食の支援では支えきれない困難を抱えた子どもや家族の場合もあります。そういうケースに出会ったら、「私たちはどうすることもできません」で済ませてはいけないと思っています。地域ケアプラザの包括支援センター

につないだケースもあります。

でも、多くのそういったケースが、今の社会保障のなかでは、具体的なサービスにつながりにくかったりして、困りごとに即対応というわけにいかない場合が多いと思います。

SOSを求めても、どこでも、どうにもならない経験をすると、助けも求めなくなってしまいます。子ども食堂にも来なくなる親子もいます。そういう時、非常に悩みますが、思い直します。複雑多様化する家族の暮らしの困難性に、教育、福祉といった公的な制度やサービスがなかなか届かない。だからこそ「助けてと言える場と時間」「甘えられる場、人」が必要。子ども食堂は続けていこうと。本当は常設の場、いつでもいける場があると良いなあと思っています。自分一人で始めた活動ですが、ボランティアや食材を寄付してくれる商店、企業、NPO、そして何より参加してくれる方々に育てられていると感じています。

これを何とか広げ、専門機関も含め、支えるネットワークが創れたらと思っています。

## II 必要な子どもや家族の支援の定着・拡大



「すくすく」に来る子どもたちを見ていると、子ども達にとって、皆でご飯を食べ、体験活動をし、様々な年代のボランティアさんたちとのかかわりを通じて、安心して自分を出し、時には甘え、いろいろな人とかかわることで心を豊かに満たせる場になっていると感じます。「すくすく」の活動は月に1、2回ですが、子ども食堂の取り組みがもっと地域に広がれば、それを必要としている子どもは月に何度も利用することができます。町内会ごとであれば、地域の大人が地域の子どものより知る事となり、地域での子育てができることになると思います。

もっと、活動が社会に定着し、広がっていくことを願っています。

#### 取材を終えて

加々美さんのお話は、ご自身の子育てで、地域に支えられた経験と福祉施設での勤務経験からとても強い説得力ある「子ども食堂」の意義や価値が伝わりました。

「子ども食堂すくすく」や「ホットサロンすくすく」を利用する人・共に活動するボランティア・活動を後方的に支援する人や団体にも強い共感があるのだと思います。活動を利用する沢山の親子の心と生活が支えられていることと思いますが、一連のお話を伺ってこうした共感を地域社会に育てていくことこそ、とても大切なことと思えました。多くの課題を乗り越えようとしている活動でしたが、心に残っていることとしては、複合的な困難を抱える子どもや家族に公的な支援が総合的に提供されることは難しい。それを実現するには地域と多様な専門機関の行き届く支援を目指すネットワークだけれど、それが、本当に難しいのだとのつぶやきでした。